

自動車における究極の軽量化

浜松地域新素材事業化研究会

マルチマテリアル車体の最新動向

The Leading-edge trend of the Multi Material body



2015 **10/1**木 10:00~18:00

会場 ホテルクラウンパレス浜松 4階 芙蓉の間

定員 先着70名

地球環境の観点から、自動車においては、CO₂排出量削減が焦眉の課題となっています。その方策のひとつが車体軽量化であり、最新技術として、適材適所の考え方から、マルチマテリアル化が潮流となりつつあります。当財団は、2009年からCFRP、チタン、マグネシウム、ウルトラハイテンの事業化研究会を立ち上げ、適材適所の考え方を推進して参りました。2014年2月に同名の講演会を開催し、好評を博しました。今回は、更に踏み込んだ議論を展開すべく、丸1日かけた第二弾を企画致しました。各材料とも国内屈指の講師陣をお迎えし、有益な情報を提供できることと思ひます。多数のご参加を御願ひ致します。

参加費
2,000円

開催内容	【第一部】 講演	10:05~11:05	1 「マルチマテリアル車体の動向と接合技術について」 日産自動車(株) / 千葉晃司氏
		11:05~12:05	2 「アルミニウム合金の自動車部品への採用の現状と将来の展望」 (株) 神戸製鋼所 / 櫻井健夫氏
		13:05~14:05	3 「自動車用高強度鋼板の開発動向」 新日鐵住金(株) / 吉永直樹氏
		14:05~15:05	4 「CFRPの自動車への適用動向」 東レ(株) / 山口晃司氏
		15:15~16:15	5 「『新型レジェンド』における新構造ドア製法3Dロックシーム技術の開発」 ホンダエンジニアリング(株) / 熊谷祐二氏
	【第二部】 パネルディスカッション	16:30~17:30	「マルチマテリアル車体の課題」 モデレーター 静岡大学 特任教授 / 中村 保 氏
	【第三部】	17:30~18:00	名刺交換会 (同会場にて)

日産自動車(株) 車体技術開発部シニアエンジニア

千葉 晃司 氏

■主な経歴

1982年 日産自動車(株) 総合研究所入社
1996年 車両研究所 主任研究員
1999年 先行車両開発部 主担

講演概要

近年、世界各国で燃費やCO₂規制が強化されている。自動車各社は、燃費向上のために、エンジンのダウンサイジング、電動化、軽量化などの各種技術開発を積極的に進めている。今回、自動車軽量化の有効手段である車体軽量化の方策で、材料を適材適所に採用した「マルチマテリアル車体」の動向とそれを成立させるためのキー技術である接合技術、すなわち異材接合技術について解説する。

神戸製鋼所(株) アルミ・鋼事業部門
アルミ板自動車材営業部 市場開発室 次長

櫻井 健夫 氏

■主な経歴

1990年(株)神戸製鋼所 真岡製造所 アルミ板研究部
入社し、自動車パネル用アルミニウム合金板材の
開発に従事。

講演概要

近年、地球環境保護のため、自動車等輸送機の燃費改善やCO₂排出量の低減が求められる中、軽量素材適用による車両重量の軽量化が課題となっている。アルミニウム合金は、比重が小さく、軽量化効果が期待されるため、自動車の様々な部位に適用されるようになった。そこで、自動車部品に適用されている展伸用アルミニウム合金の種類と特性、採用事例および適用拡大に向けた開発状況ならびに将来展望を紹介する。

新日鐵住金(株) 鉄鋼研究所薄板研究部 部長

吉永 直樹 氏

■主な経歴

入社以来一貫して自動車用鋼板の研究開発に
従事し、組織制御の基盤から商品開発に至る
まで幅広い経験がある。

講演概要

地球環境問題や衝突安全性に関する自動車への社会的要請が高まる中、自動車用車体用鋼板は、近年目覚ましい進歩を遂げている。冷間プレス用高強度鋼板については、10年ほど前には引張強度590MPa級が主体であったが、最近では1180MPa級も使用されるまでに至っている。またホットスタンプ用鋼板では、1800MPa級が適用され始めている。本講演では主に、このような超高強度鋼板の進歩を支える金属学的なアプローチについてトピックスを交えながら概説する。

東レ(株) ACM 技術部 主任部員

山口 晃司 氏

■主な経歴

2006年 東レ(株) 過年度入社。複合材料
研究所、オートモーティブセンター、ACM技術部。
一貫して、自動車向け炭素繊維複合材料の拡大に従事。

講演概要

自動車各社の環境規制への対応、ドライバビリティ向上に向けた車体の軽量化が注目されている。本講演ではCFRPが自動車に使われた歴史を振り返るとともに、現時点でのCFRP採用動向とそのために必要となる成形加工技術と今後の課題について紹介する。

ホンダエンジニアリング(株)生産技術部
車体生産技術ブロック 生技6グループ 専任技員

熊谷 祐二 氏

■主な経歴

2008年入社。車体生産技術の開発、特に外板・
外観部のパネルの新材料適用・新プレス製法の開
発を推進。

講演概要

Hondaはアルミニウムとスチールの異種金属部品を一体化した新構造ドアを「新型レジェンド」に搭載し、従来のスチール製ドアに対し車1台あたり約11kgの車体軽量化を10%の製造コストアップ(Honda調べ)で達成した。本講演では車体のマルチマテリアル化の事例として新構造ドアの概要、及び新構造ドアの量産化のためのコア技術であるドア外縁部の新加工方案「3Dロックシーム技術」について紹介する。

《 お問い合わせ / お申し込み 》

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 新技術開発G / 山田・金原

TEL: 053-489-8111

URL: <http://www.hai.or.jp/>

FAX: 053-450-2100 E-mail: jigyoubu3@hai.or.jp

○ 申込期限/平成27年9月29日(火) ○ 下記申込書に必要事項をご記入の上、E-mailまたはFaxにてお申込み下さい。

《 参加申込書 》

会 社	会社名
	住 所 〒
	TEL: FAX:
参加者	氏名
	所属・役職
	E-mail

個人情報保護に関する注意事項

申込書にご記入いただいた個人情報は、主催者の事業等に関する情報や参加者募集の案内等の範囲内で利用または提供致します。個人情報は取扱目的以外に利用したり、第三者に提供することはありません。